



毎月20日は ペットフードの日

ペットと歯の健康 (デンタルケア)

ペットの歯周病

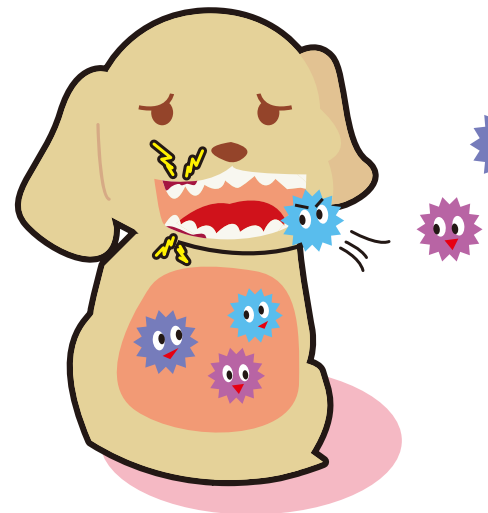
犬や猫は、人間とは異なり、口の中で糖の分解は行われず、また、口腔内のpHも異なります。人間に多い虫歯（う蝕）は非常にまれです。しかし、歯周病は非常に多く、成犬期・成猫期の犬猫の60～80%がなっているといわれています。歯周病は動物の生活の質を低下させるため、子犬・子猫の時から定期的なブラッシングの習慣をつけておきたいものです。その際は、最初は獣医師から正しい歯磨きの方法を指導してもらおうと良いでしょう。また、定期的に獣医師の診察を受け、歯垢や歯石を取ってもらうことも必要です。

歯周病の原因

歯周病は、口の中の細菌が食べかすを栄養として繁殖し増大することが原因で起こり、歯の表面で増殖すると「歯垢」となり、この歯垢が唾液に含まれるミネラルと結合し固まったものが「歯石」です。歯垢や歯石は放っておくと徐々に蓄積し、歯を支える歯茎にまで炎症を起こします。この状態になると、歯茎から出血するようになり、口臭や痛みで食事ができなくなります。歯周病になると、細菌やその毒素が歯茎周囲の血管から血流にのり心臓や腎臓に流れ着きそこで炎症を起こしてしまうこともあります。そのため歯周病は、最近では、口や歯の病気ではなく全身性の病気の原因としても注目されています。

歯周病が全身に及ぼす影響

歯周病が及ぼす影響は、口のなかにとどまりません。細菌やその毒素が歯茎周囲の血管から血流にのり、心臓や腎臓に流れ着き、そこで炎症を起こしてしまうことさえあります。そのため、最近では、歯周病は、口や歯の病気としてだけでなく、全身性の病気の原因としても注目されています。



ペットフード/ペットマナー検定公式テキストより